



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2016年11・12月
第313号

病院だより第313号 (2016年11・12月号)

発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 田中 淳一
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

藤ヶ丘病院呼吸器外科医長就任のご挨拶

藤が丘病院呼吸器外科 医長 門倉光隆

9月13日付けで藤ヶ丘病院呼吸器外科医長(昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター長兼任)として就任いたしました。2011年2月から当院呼吸器外科スタッフは、大学内における人員配置の再検討により、昭和大学横浜市北部病院呼吸器センター(以後北部病院)に統合異動となりました。そのため、当院初診の患者さんを外来で拝見したのち、外科的診療や手術が必要と判断された方は北部病院を受診していただき、引き続き診療を行なわせていただいております。なお、救命救急センターでの対応で呼吸器外科緊急手術が必要となった場合には、北部病院のスタッフが藤が丘病院へ駆けつけて対応いたします。



藤が丘病院の外来診療については、木曜日午前(奇数週)は門倉が、月曜日午後(毎週)は北見明彦准教授、または鈴木浩介助教(藤が丘・北部病院兼任)が担当いたします。現在、当院の外来へ通院していただいている方は、以前に藤が丘病院呼吸器外科で手術を受けられた患者さん、あるいは藤が丘病院から移動していただき北部病院で治療を受けられた患者さん、さらに近隣の医療施設や院内の各診療科から呼吸器外科治療の適否について打診された患者さん方です。その際、外科治療が必要と判断された方には、原則として北部病院へ移動していただくようお願いしております。また、セカンドオピニオン目的の紹介受診も同時に受け付けております。

一人でも多くの外科医育成のため、医学部学生や初期臨床研修医に向けたアピールはとても重要であり、社会問題となっている外科医不足に対して歯止めが掛けられるよう日々努力しております。内視鏡手術やロボット手術など、高度医療の導入によって呼吸器外科治療も大きな変貌を遂げようとしております。今後とも一層のご協力ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

藤が丘病院薬局長就任のご挨拶

藤が丘病院薬局長・病院薬剤学講座教授(員外)
渡邊 徹

平成28年10月1日に昭和大学藤が丘病院薬局長を拝命致しました。私は昭和大学薬学部を卒業後大学院へ進学し、新たな薬剤師像を模索しながら、日本医科大学多摩永山病院にて現場での臨床知識の修得に没頭致しました。その後、博士課程に進学し、基礎研究も学び医療人として幅広い知識と専門領域における知識を習得をしまいりました。大学院時代に培った知識を生かし、約8年間、がん研有明病院(旧がん研究会付属病院)にて様々な癌患者における薬物治療を間近に経験し、薬剤師として専門施設における病棟業務に専念することができました。その後、2008年に昭和大学病院にまいりました。それまで昭和大学病院勤務の経験はありませんでしたが、様々なスタッフの皆さんに支えて頂きながら現場における実践教育と臨床業務に取り組む事ができました。医療人の本質を教えて頂きながら素晴らしい医療スタッフに出会えたことが今の自分の糧となっています。2010年には大学病院から旧豊洲病院へ異動となり、江東豊洲病院の立ち上げにも加わりながら新しい業務、カリキュラムの導入や臨床実習の構築にも携わり、改めて臨床業務と実地教育の重要性を実感しました。



近年、医療水準の進展とともに薬物治療が高度化し、医療の質の向上や医療安全の面から、薬剤師が主体的に薬物治療に参加することが求められています。患者さんに最善の薬物治療を実施するためには、集団ではなくチームの一員として各々のメンバーが他職種と連携して患者さんの情報を共有し、病状を十分に理解しながら科学的根拠のある治療を検討することが重要です。今後はチーム医療の一員として、さらなる薬物治療の質の向上と医薬品の安全性の向上に努めていきたいと思っております。皆様のご期待に応えられるよう日々邁進していきたいと思っておりますので、皆様のご指導・ご鞭撻の程宜しく願い申し上げます。

地域医療支援病院運営協議会について

藤が丘病院は、平成27年11月6日付で神奈川県知事より『地域医療支援病院』の承認を受けました。地域医療支援病院として、当該病院に勤務しない外部の先生方で構成される地域医療支援病院運営協議会を設置し、地域のかかりつけ医、かかりつけ歯科医等からの要請に適切に対応し、地域における医療の確保のために必要な支援を行えるよう年4回、協議会を開催することが義務付けられています。第2回の協議会が10月17日に藤が丘病院で開催されました。協議会では、紹介患者に対する医療提供、共同利用の実施、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修の実施等などの業務遂行状況について審議いたしました。今後も地域の医療機関と連携・協力しながら医療の質とサービスの向上に努め、地域のみなさまに信頼される病院として地域医療に貢献してまいります。

藤が丘病院プレストセンター開設のご挨拶

藤が丘病院プレストセンター（乳腺外科）

講師 榎戸 克年

乳癌治療は、以前とは比べものにならないほど複雑になり、高い専門性が要求されるようになりました。質の高い診療を提供するため藤が丘病院プレストセンターが開設されました。センター内には、診察室のほかマンモグラフィ・超音波・処置室が配置されており、専用の検査衣に着替えた後、センター内で診察や精密検査を速やかに受けることができます。



日本の乳癌患者は、欧米と比較して若年者の割合が高いという特徴があるため、手術では整容性に対する意識が高く、薬物療法が積極的に導入される傾向にあります。保険診療での乳房再建が可能となり、乳房切除が必要なケースでは、形成外科と連携し同時乳房再建を積極的に行っています。若年者の薬物療法では、一度卵巣機能を失うと回復が極めて困難であることから妊孕性に対する情報提供が必要です。乳癌治療の方針の決定に際しては、患者自身がその問題を考える機会を失わないよう配慮していきます。

最近ではメディアの影響により乳癌の関心が高くなる一方で、大きな不安を与えています。米国の有名女優による乳癌・卵巣癌に対する予防手術の報道で遺伝性乳癌に対する認識が広まり、その心配をする方が少なくありません。遺伝性乳がんが疑われる方は専門の医師によるカウンセリングをお勧めし、ご本人の意思によってBRCA1/2 遺伝子検査(自費診療)を受けることも可能です。

病気の治療だけでなく、できるだけ不安を解消し、安心をさせることも私たち医療者の大切な仕事ですので、その役割を果たせるような機能を充実させていきたいと思っております。



放射線治療装置更新のお知らせ

藤が丘病院放射線室 技師長 加藤 京一

放射線室から、この度更新となった放射線治療装置(リニアック)の紹介をさせていただきます。

今回導入された装置は、IMRT、IGRT、定位照射、呼吸同期照射が可能となります。IMRTとは、コンピュータ計算により放射線強度を調整して治療する照射方法で、リスク臓器への照射線量を低く抑えることができます。IGRTとは、照射直前にリニアックに備え付けられている画像装置で位置確認画像を撮影し、照射位置をミリ単位で修



リニアック室

正して照射する技術です。これを実現するために、ミリ単位で前後、左右、上下、回転、ねじれなど6軸で調整可能な寝台を備えております。IMRT 実施時には必ずIGRTを行います。定位照射は3cm程度の小さな腫瘍に対して放射線を集中させて照射する方法で、通常照射よりも一回の線量を多くして、短期間で治療することが可能で、IGRT や呼吸同期等を組み合わせて行います。

また改修工事に伴い、治療室及び治療計画CT室の天井と壁の一部に、イメージパネルと立体感ある天窓仕様のフレームで構成された、リビレーションスカイシーリングを導入しました。窓のない壁と通常よりも高い天井に囲まれた放射線治療室ですが、自然へとつながる、魅力的空間かつ癒しの環境を患者さんに提供できます。

このように、新しくなった放射線治療室並びに放射線治療装置は、癒しの空間の中で、これまで以上に高精度な放射線治療を行える環境が整いました。多くのご依頼をお待ちしております。



治療計画用CT室



リニアック室通路

女性看護のプロを目指します

昭和大学藤が丘病院 4東病棟 主査 井上 美希子

藤が丘病院4階東病棟は産科・婦人科の混合病棟です。診療内容は婦人科においては、良性腫瘍・悪性腫瘍・子宮筋腫・卵巣嚢腫・異所性妊娠などによる手術療法・化学療法・放射線療法を行っています。産科では、切迫流産・早産・重症妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群など妊娠・分娩・産褥・新生児管理を行っています。対象の年齢層も幅広く、新生児から老年期までと女性の一生において様々な病期にある対象の看護を行っています。平成28年4月より神奈川県周産期救急医療システムの中核病院・地域周産期母子医療センターに認定され、小児科・産科の連携をより強化し、対象のニーズに合わせた支援を行っています。また、平成28年11月から乳腺外科の受入



れが開始されました。このように当病棟は診療科が混合であるため看護師・助産師が協同し看護の提供に心掛けています。女性看護のプロとして常に患者・家族に寄り添い、最善の治療・看護の提供を目指しております。

平成 28 年度青葉区 自衛消防隊消防操法技術訓練会に参加しました

平成 28 年度青葉区自衛消防隊消防操法技術訓練会が 9 月 28 日(月)に青葉自動車学校で開催されました。毎年、藤が丘病院自衛消防隊は、屋内消火栓操法Ⅰの部にエントリーさせて頂いています。屋内消火栓を使用し迅速かつ正確に放水し消火するという目標の下、8 月より訓練を開始しました。院内の各部門から選出されたメンバーは、当初、消火栓の使い方も儘ならぬ状況でした。しかし、青葉消防署署員の方々のご指導を受けながら、次第にメンバー間のコミュニケーションも良くなり、それぞれの動きを確認しながら進めることが出来ました。今年は、僅差で区内 2 位という結果でしたが、患者さんの安全を守るための一つの技術として身につけることができ、個々の自信にも繋がりました。この場をお借りして、ご尽力頂いた青葉消防署、院内関係部署の方々にお礼申し上げます。



(藤が丘病院看護部 前田 うづみ)

第 20 回 藤が丘地域連携フォーラムが開催されました

10 月 13 日(木)、藤が丘病院にて第 20 回藤が丘地域連携フォーラムが開催され、地域医療機関 72 施設 105 名の方にご参加いただきました。また当院からも病院関係者 114 名が参加しました。平成 23 年 9 月より始まった藤が丘地域連携フォーラムも 20 回目を迎え、今回は記念講演として昭和大学病院乳腺外科 中村清吾教授より「乳癌の診断と治療 - 最近の話題より-」が行われ、その後 11 月より開設した、プレセンターの



見学を行いました。近年、関心の高まっているテーマということもあり、ご参加いただきました皆様から大変好評でした。講演会、施設見学に引き続き、立食形式での懇親会を開催しました。各テーブルとも、とても賑やかに会話が弾んでいました。ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。

なお、次回、第 21 回地域連携フォーラムは、平成 29 年 1 月 12 日(木)に開催を予定しておりますので、多数のご参加を心よりお待ちしております。

(藤が丘病院医療推進課 圓乗 佑太)

第 12 回 「医療安全の日」講演会が開催されました

10 月 28 日は藤が丘病院の「医療安全の日」です。14 年前に藤が丘病院で発生した重大な医療事故を風化させないために、2005 年に「医療安全の日」を制定して以来、毎年記念講演会を開催しています。今年は、自治医科大学さいたま医療センター 医療安全・渉外対策部 遠山信幸 教授をお迎えして「院内報告制度の活性化と医療安全文化の醸成」をテーマに講演会を開催しました。

講演では医師によるインシデント、アドバースイベント報告の重要性と報告件数を増やす取り組みについてわかりやすく解説がありました。受講者からは「事例報告は個人責任を追及するためのものではないことが解ったので、これからは躊躇せずレポートできそうです」との声も聞かれました。



(藤が丘病院クオリティマネジメント課 久保田 浩司)

病院ワークショップ報告会が開催されました

平成 28 年度藤が丘病院・リハビリ病院合同ワークショップ(9 月 2 日・3 日開催)の報告会が 11 月 17 日に開催されました。



今年度は「地域中核病院としての役割と藤が丘・リハビリ病院の連携強化」をテーマに、5グループに分かれて発表が行われました。

- ① “ER病棟受入率向上PJ” 答申の具体的実行案構築及び“本院救急医療センター患者受入促進PJ”の検証
- ② 逆紹介・返書の推進／外来・入院患者対応／診療情報提供書のモデルフォーマットの作成
- ③ 紹介患者の迅速な受入体制の構築(定期入院患者増加の方策・専門外来の再構築)
- ④ 後方連携病院」の開拓 後方連携病院のあり方及び条件について
- ⑤ 藤が丘リハビリテーション病院のあり方検討プロジェクト“本院の取り組み事項”の検証

報告会には医師だけでなく、看護師・臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技士を含む総勢125名が参加し、部門横断的な議論が交わされました。発表終了後は三邊理事より、本報告会のみならず問題解決に向けて継続的な活動を行うようにご講評を頂きました。

(藤が丘病院管理課 山口 詩織)

地域合同防災訓練が行われました

11月20日(日)午前中に「昭和大学藤が丘病院・リハビリテーション病院地域合同防災訓練」が行われました。地域関連機関と合同での訓練は今年で4回目を迎え、青葉区役所、青葉警察署、青葉消防署、青葉区4師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会、神奈川県柔道整復師会)、非常通信協力会、湘中央生命科学技術専門学校、日本体育大学の方々のご協力によ

り、総勢364名が参加する大規模な訓練となりました。

当日は東京湾川崎沖2kmを震源とする震度6弱の東京湾北部地震が発生、病院機能を大幅に失う損害は免れ診療は継続可能という想定のもと、災害時に適切な病院運営の判断を行うための本部機能訓練、治療の優先順位を決めるトリアージ訓練、電子カルテダウン時を想定した紙伝票による外来・病棟訓練に加え、地域住民の方々を対象とした応



急救講習会を行いました。また、今回の訓練では青葉区福祉保健課に設置された医療調整班を中心に、災害時地域定点診療拠点であるあざみ野第二小学校との模擬患者の搬送



訓練も行いました。

訓練を通じて抽出された様々な反省点や課題点を、これからの訓練や災害対応マニュアルの改訂に生かし、災害拠点病院としての使命を果たすべく、更なる機能・地域連携の強化を推し進めてまいります。

(藤が丘病院管理課 小暮 真也)

診療統計 2016年10月・11月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2016年10月	2016年11月	2016年10月	2016年11月
外来患者数	26,937人 (1,077.5人)	25,915人 (1,126.7人)	3,993人 (159.7人)	3,814人 (165.8人)
入院患者数	16,084人 (518.8人)	14,725人 (490.8人)	5,456人 (176.0人)	5,223人 (174.1人)
紹介率	84.8%	86.5%	69.0%	72.3%
逆紹介率	61.9%	66.6%	72.5%	83.0%

《編集委員》

田中 淳一	佐々木 春明	市川 度	池田 裕一	小岩 文彦	磯 良崇
芳賀 ひろみ	辻本 さなえ	猪股 里美	出川 美幸	杉山 創	小宅 育代
岩井 譜憲	圓乗 佑太	大塚 凌	高橋 良治	(順不同)	